

SECUREMATRIX[®]

株式会社メディセオ・パルタックホールディングス

SECUREMATRIX[®]とFirePass[®]の技術提携が支える 営業支援リモートアクセスネットワーク

課題

- 訪問先での営業を支えるセキュアなモバイルインフラの構築
- 全国約3500名の現場営業社員への負担ない展開
- 運用、管理性の高いシステムの実現

効果

- SECUREMATRIX[®]とFirePass[®]の組み合わせでセキュアなリモートアクセスを実現
- トークンなどの配布物がなく広範囲、多人数へも容易に適用
- 協業関係にあるF5ネットワークス社のソリューションを利用し、運用負荷を低減

導入の経緯

メディセオ・パルタックホールディングス(以下、メディセオ・パルタック)は、医療用医薬品等の卸業を営む企業を傘下に持ち、医療、健康、美容に関する各種商品の流通を手掛けている。商品とともに業界の最新情報を届けることが、取引先やその先にいるエンドユーザのメリットになると信じ、取引先を実際に訪問しての営業活動に力点を置いて活動している。こうした営業活動を支えるためのITインフラを整備すべく考案されたのが、今回構築されたOrion Mobile Connectと銘打たれたリモートアクセス環境だ。

これまで各営業担当者にはポケットPCという小型の携帯情報端末を配布していた。外出先から受注処理を行なうには便利だが、客先での情報提供やプレゼンテーションには向かない。より画面サイズの大きなノートPCを持ってもらうよう方針転換が図られた。セキュリティを確保しながら社内と同じ使い勝手を外出先のノートPCで実現することが、目標となった。医療用医薬品を扱うため、取引先となる医療機関の情報なども持ち歩かざるを得ないため、セキュリティの確保が最優先事項とされた。これらの情報が万一にも漏洩しないよう、万全の対策が求められる。

導入決定のポイント

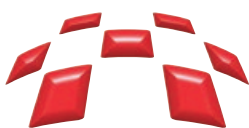
ノートPC自体の対策として指静脈認証に対応した製品が選ばれ、HDDの内容も暗号化されることになった。業務ネットワークへのリモートアクセスに関しても、各種のVPN製品や認証ソリューションに関する情報収集が行なわれた。

「IDと固定パスワードではセキュリティ強度に不安が残ります。かと言って、運用面を考えるとトークンやICカードを配布するシステムもベストとは思いませんでした」

システム運用部 奥野氏はそう語る。想定されていた利用者数は、グループ企業の全従業員3500名。全員にハードウェアトークンを配布すれば、紛失や破損への対応だけでも大きな負担となってしまう。解決策を探す前田氏の目に止まったのが、ランダムに表示される乱数表を使うワンタイムパスワードソリューションだった。いくつか検討したワンタイムパスワード製品のうち、自社で細かく設定・変更したい項目を設定できるすぐれた管理機能を備えていることがSECUREMATRIX[®]選択の大きな理由だったという。

SECUREMATRIX[®]を自社で構築、運用すれば、ActiveDirectoryと連携したユーザ管理や、認証タイムアウトなどの細かい設定変更も可能だ。さらに、SSL-VPN製品との連携も大きな後押しになった。メディセオ・パルタックが選択しようとしていたSSL-VPN装置FirePass[®]を提供するF5ネットワークスとCSEは技術提携を結んでおり、高度な連携機能を実現するとともに、万一の障害時においても足並みを揃えて解決に向けた対応を行う。「複数のベンダの製品を組み合わせると、障害時に障害ポイントの切り分けが難しかったり、対応窓口が複数に分かれてしまうという問題が発生します。技術提携によりそうした管理上の問題がクリアになりました」これまでにも複数ベンダの製品を組み合わせるとシステムを構築、運用した経験を持つシステム運用部 システム運用第四グループ マネジャーである前田氏は、ベンダ同士の提携がエンドユーザに与える影響は大きいと力強く語った。

導入企業



mediceo
PALTAC

株式会社メディセオ・
パルタックホールディングス

<http://www.mediceo-paltac.co.jp/>

会社概要

業種の枠を越えて医療、健康、美にかかわる各種商品の流通を担う、業態別卸企業。「元気と、かがやき」をスローガンに掲げ、拡大を続ける健康・美容関連市場の裏舞台を支えている。



株式会社メディセオ・パルタックホールディングス
システム運用部
部長 奥野 和雄 氏



株式会社メディセオ・パルタックホールディングス
システム運用部 システム運用第四グループ
マネジャー 前田 伸幸 氏



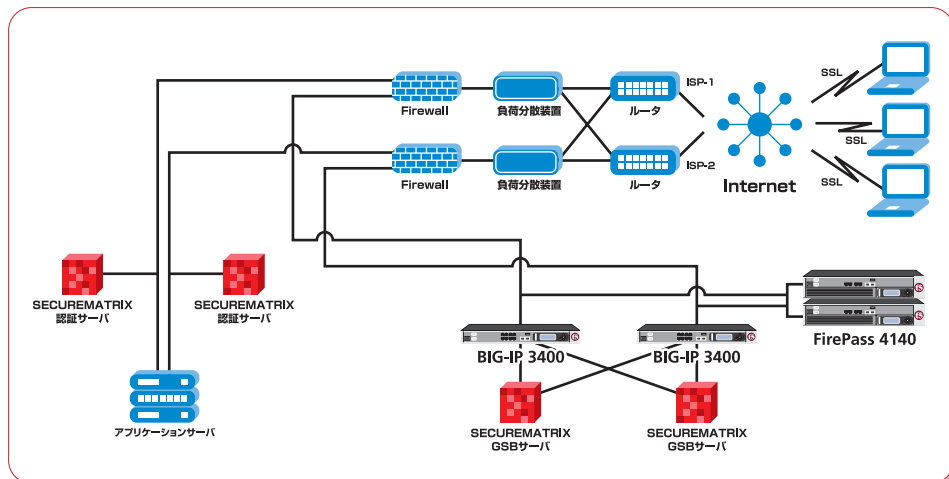
株式会社メディセオ・パルタックホールディングス

実際の導入までの課題

実際のリモートアクセス環境構築に際しては、SECUREMATRIX®の認証サーバとGSBサーバ、SSL-VPN装置FirePass®のすべてを冗長化構成にし、シングルポイントの障害でネットワークを利用できなくなることがないように配慮された。これは医薬品を取り扱うという業務の性質を考慮し、対障害性を重視した結果だ。災害や事故、急病などの事態に対応するため、緊急の発注が起こり得る。そのような場合にも確実に受注処理を行ない、商品を届けなければならないからだ。

導入時の初期設定も非常にスムーズに進んだ。認証情報をSECUREMATRIX®に集約できるため、FirePass®側ではユーザ情報の登録、管理を考える必要はない。技術提携によるメリットを、導入時から感じられたポイントだという。

■ 株式会社メディセオ・パルタックホールディングス 構成概略図



現在の運用状況

今回導入したSSL-VPNシステム経由のリモートアクセスで営業が現在利用しているアプリケーションはメール、掲示板、営業支援システム(SFA)といった営業活動の基盤となるアプリケーションである。6月からの導入で、営業部員の反応はおおむね良好で『よく使うアプリケーションが利用できるため、得意先まわりの合間に様々な仕事ができ、効率も上がった』との声が出ているという。

受発注処理と在庫検索の業務アプリケーションも同じくリモートアクセスできるようにノートPCに配備されており、即時性重視の観点からキャリ

ア提供のネットワークで分離構築している。今後接続時間が短縮され次第SSL-VPNへ統合したいと考えているそうだ。リモートアクセスの認証としては、SECUREMATRIX®のマトリクス認証が新たに導入されたわけだが、マトリクス認証はユーザからは好評だという。操作がわかりやすく一度説明すればすぐに理解してもらえるため、現在は一部の拠点でのみ導入している状態だが、これから先に控える全拠点への展開に関しても不安のない、いいスタートを切れたと、奥野氏と前田氏は揃ってほほ笑んだ。



SECUREMATRIX®とFirePass®によって外出先でのセキュリティを確保できたメディセオ・パルタック。次のセキュリティ向上のステップとして関心を寄せているのは、いかに社内と社外の環境を統一していくか、という課題のようだ。今後はWindowsログオン時にもSECUREMATRIX®を利用し、PC起動時の認証とリモートアクセス接続時の認証方法を統一していく予定だという。「シチュエーションによって操作方法が変わると、ユーザが混乱してしまいます。いつでも同じ操作方法で利用できることが理想的です」と語る前田氏からは、セキュリティだけではなくユーザの使い勝手を重視する姿勢が強く感じられた。

※記載内容及び、各人の所属役職は取材当時(2007年5月)のものです。



開発元

株式会社シー・エス・イー

http://www.cseltd.co.jp

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-3-1 A-PLACE渋谷金王
TEL.03-5469-6026 FAX.03-5469-6037
E-mail: sales@cseltd.co.jp

●お問い合わせ先